# 外国人労働者

## 　2020-09-23　CS7070 たくぞう

# 概要

# 目次

# １．労働市場の変化

# ２．外国人労働者の割合

# ３．移民・難民の定義【5】

# ４．日本の移民・難民の受け入れ状況

# ５．日本に住む外国人移住者

# ６．海外の移民の現状【3,4】

# 進捗状況

# ７．参考文献　このレポートの概要として日本は少子高齢化社会がますます進むと予測されている。そのため労働力不足を補うために日本政府は外国人労働者に頼らざるを得ない状況となっている。そこで諸外国では移民などによる外国人労働者を多く受け入れている実績があるため、海外の事例を研究し日本ではどのように労働力不足を補えばよいかを考察していく。　目次は以上の通りである。　1.労働市場の変化は先述の通り、人口減少社会となっているため労働力も自ずと減少していく。労働力人口とは15歳以上の働く意思と能力のある者のことをいう。これは国税調査などで分かる。1995年では6,600万人いたのに対し、2017年では6,000万人程度となっている。15~29歳の労働力人口は減少しており高齢者の割合が高くなっている。　2．外国人労働者数では外国人の人数も外国人労働者の人数も2012年から17年で比較すると右肩のぼりでいる。　次に移民・難民の定義をそれぞれ説明していていく。移民は定義づけされており紛争などによって出身国を逃れざるを得ない状況になった人々のことである。具体的にはシリア人などに該当している。次に難民であるが難民は法的な定義がされていない。専門家の所見では定住国を変更した人々のことをいう。　次に日本の移民・難民の受入れ状況として主に人手不足業界に多く見られる。例えば、コンビニや居酒屋、建設業や農業、漁業など多岐にわたる。OECD（経済協力開発機構）によると先進国34か国で外国人移住者の数は日本である。トップ3はドイツ、アメリカ、イギリスの順である。　次に日本に住む移住者国ランキングで上から中国、韓国、フィリピン、ベトナム、ブラジルである。しかｈし、不法移民も多く取り締まることが少し難しい状況である。　最後に海外の移民の現状である。アメリカでは2017年現在で約4,400万人もの移民を抱えており全人口の13.6%にも値する。これはメキシコからの移民も多いことが要因として考えられる。次にヨーロッパ諸国では2015年に「欧州難民危機」があり、中東やアフリカ諸国から大量の難民が押し寄せてきた。ヨーロッパ諸国でも対応が大きく分かれることとなり、排他主義の傾向が強まることとなった。　進捗状況は未だ外国人労働者と漠然とした主題のためそろそろ核となるテーマを決めたいと思っている。　　最後に参考文献である。【1】宮島喬、鈴木江理子、新版　外国人労働者受け入れを問う、岩波書店、2019-10.

# 【2】島井一平、国家と移民　外国人労働者と日本の未来、集英社新書、2020-06.

# 【3】澤田晃宏、ルポ　技能実習生、ちくま新書、2020-05.

# 【4】四釜綾子、外国人労働者と社会的統合政策、玉川大学経営学部紀要(31)、1-16,2020-03.

# 【5】難民と移民の定義、国際連合広報センター、2016-12-13、閲覧日2020-07-28、<https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/22174/>.